

東田利町報

No.295 昭和54年10月1日発行 昭和42年7月21日第3種郵便物認可 毎月1日発行

町の生活目標

- 1.町の心は明るいあいさつ
- 2.きれいな町で健康な暮らし
- 3.ミエ・ムダはぶいて生活の工夫
- 4.学び・働き・助けあう・ゆたかな心



No 295

10
/ 1

《勤労と収穫の喜びを》

収穫の秋一蔵小学校では9月20日、全校児童98名による稲刈りを行いました。

これは、農作業を体験することで、勤労と収穫の喜びをからだで覚えてもらいたい…と、2年前から同校PTA会長の阿部幸悦さん（岩館）の田んぼ約6アールを借りて実施しているものです。

品種はヒメノモチで、去る5月25日に児童全員で手植えたもの。

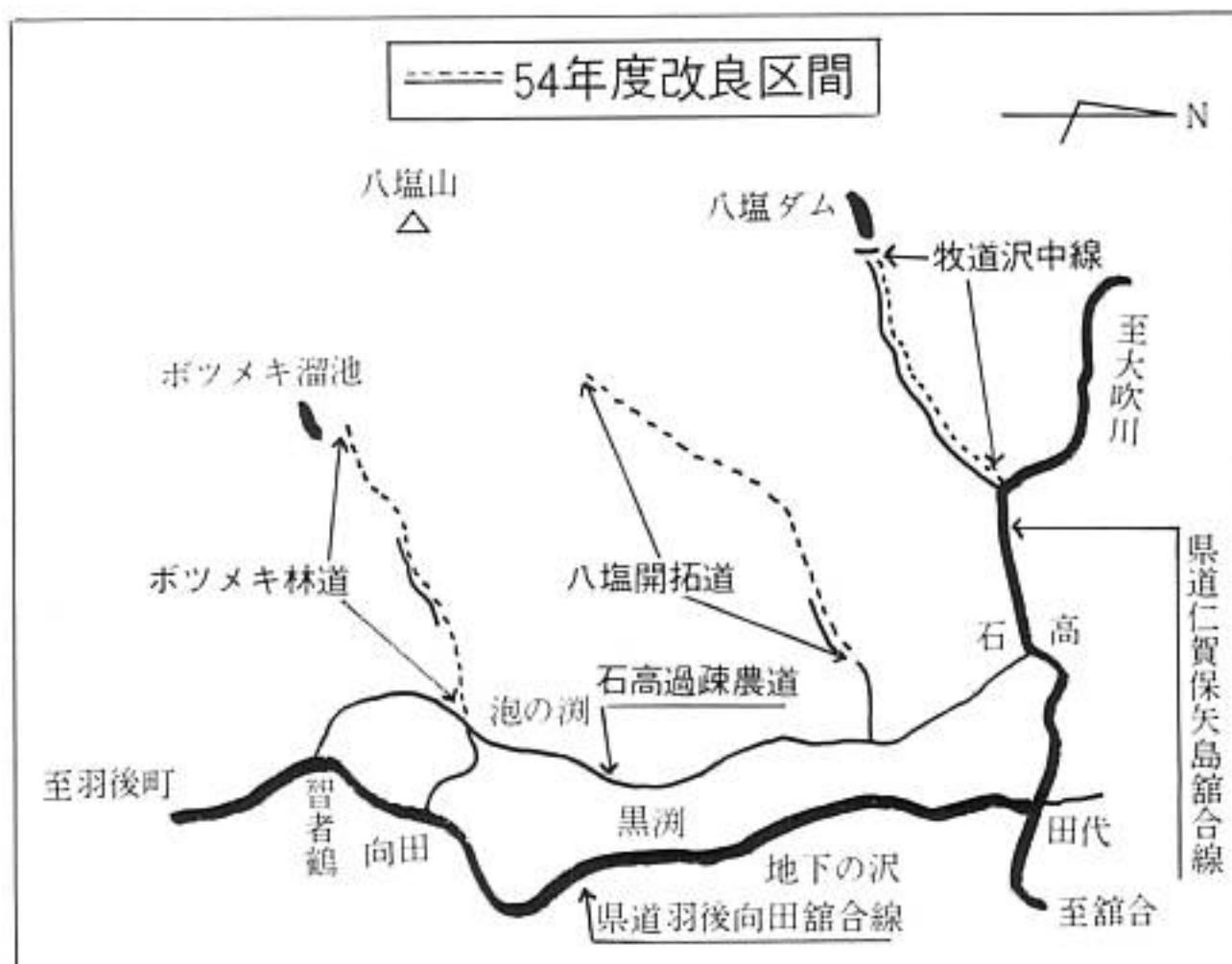
重く首を垂れた黄金色に輝く稲を刈る子ども達の顔には大粒の汗が光り、青く晴れわたった秋空には、収穫を喜ぶ明るい歓声が響いていました。

八塩に向かい、三路線整備

沢中線・八塩線・ボツメキ線

総額 2 億 8 千 40 万円 投入

産業及び観光開発に大きな可能性を残している八塩山麓に向かい、総額二億八千四十万円を投じて今年から三路線が改良整備されることになり、今その工事が着々と進められています。



沢中線は今年度で全線改良・舗装

一つは、一般にダム道路と言われる沢中線です。これは、石高を過ぎて大吹川とダムに分かれる地点（県道に賀保矢島館合線接続点）から、ダム手前、通称「土取場」と呼ばれる地点までの延長九百二十メートルを、総事業費五千四百万円を投じ、団体営草地開発事業の中の牧道整備事業として、単年度で幅員五・五

開拓道路八塩線

今年度は百六十メートル

二つ目は、金森沢（石高地内）を起点に、ヨシヤチ（不動滝）を終点とする八塩線で、延長三千五百メートルを総事業費一億三千六百万円を投じ、開拓道路整備事業として四カ年計画で幅員五・〇メートルに改良するものです。初年度の今年度は、五百四十万円を金森沢地内百六十メートルを改良、九月末で工事完了しています。

林道ボツメキ線

今年度は八百六十メートル

三つ目は、泡の淵とボツメキ（東田利水道水源）を結ぶ延長三千三百メートルのボツメキ線で、林道開設事業として総事業費九千三百万円を投じ、四カ年計画で幅員四メートルに改良するものです。初年度の今年度は、二千五百五十万円を下松台地内八百六十メートルを改良、十一月末の工事期限に向けて着々と工事が進められています。

町の産業・観光開発発展に大きく影響

町の最高峰七百十三メートルの八塩山ふもとには、満々と清水をたたえる八塩ダムと、これを中心とした「いこいの森」町営朴の木沢放牧場、八塩スキー場、東田利水道ボツメキ水源などがあり、付近一帯は八塩登山と合せ、町の一大観光レクリエーション地区となっています。しかし、途中の道路状態が悪く、関係者からは、より広く町民に親しまれる「憩いの場」とするためにも、早急な道路改良整備が強く望まれています。

こうした中で、これら三路線の改良整備着手は、沿線住民の生活圏拡大や経済交流ばかりでなく、町全体の産業並びに観光開発、発展に大きな影響を与えることは言うに及ばず、一日も早い完成が待たれています。

— あなたも参加して —

町生活文化祭

とき 10月27日～29日
ところ 開発センター・朋楽荘・公民館

※詳しいことは別途チラシで！



今年度中に改良・舗装される沢中線



今年度は起点から百六十メートル改良される八塩線



山を削りながら改良・整備されるボツメキ線

社会福祉を高めるつどい

子どもの幸せを求めて

笹本君ら八人が意見発表

子どもの幸せを求めて——をテーマに、「東由利町の社会福祉を高めるつどい」が九月十四日、町開発センターで開かれました。

このつどいは、国際児童年にあたる今年、町民一人ひと

りが児童問題について考え、青少年の非行化、心身障害児、母子・父子家庭等、要援護児童の問題解決の糸口を見出し、すべての町民が助け合う「総ボランティア」を目指す契機にしよう——と、町社会福祉

協議会が主催したものです。

つどいには、民生、児童委員、議会議員を始め、母子福祉会、手をつなぐ親の会、身障者協会、青年ボランティアなど関係団体及び老人クラブ、婦人会、青年会、自治会、交通安全協会などから二百人余りが参加しました。

開会式のあと、笹本信幸君（蔵小六年）、佐藤郁子さん



宣言を朗読する
小松悌之助さん

（東中三年）、佐藤房信君、（本荘高校下郷分校三年）、小松正美さん（みどり保育園父母の会）、東海林なな子さん（永慶保育園保母）、大沼ノブヨさん（町連合婦人会）、小松豊子さん（町民生・児童委員）、小野勝徳さん（町青少年団体連絡協議会）の八名が、それぞれ自分の体験に基づく意見発表を行ない、参加者に深い感銘を与えました。

忘れてはならないと思う。子どもの幸せは子ども自身が作り出すものではない。それは社会全体であり、その中で一番大事な役割を果たしているのが基盤となるあたたかな家庭だと思ふ……と家庭の大事さを強調、参加者の共感を呼んでいました。

愛情と尊敬と信頼と

節度のある家庭を

午後は、元秋田県社会教育指導員の水上チカ子先生（本荘市住）から「子どもの幸せを求めて」と題して「……子どもの幸せを考えるとき、親や地域がなすべきことは、まずお互いの連帯感を持つ、我が子も他人の子も同一視し善悪を教える、声をかけ合う、家の歴史、郷土の歴史を教える郷土を愛する子どもに育てることである。……子どもは、大部分親の生き方から物事を

知るものであり、幸せは自分が努力してつかみ取るものだということを、ことばでなく自分の行動を通して子どもに教えることが大事である。そしてそこには、愛情と尊敬と信頼と節度のある家庭がなければならぬ……」と特別講演がなされました。

最後に、町青少年団体連絡協議会を代表して、町商工青年部副部長の小松悌之助さん（上通）が「……今年は「国際児童年」の年です。私達は、この年、このつどいを契機にして、恵まれない環境の中で生活している児童や、青少年の非行化の問題も考え併せて自らの「福祉の心」を呼び起し、より積極的に社会福祉活動に参加し、福祉の輪を広げる「ボランティア運動」を推進する」と宣言、全員がこの宣言を採択して「つどい」の幕を閉じました。



幸せは自分が努力してつかみ取るものだとすることを、親や地域は自分の行動を通して子どもに教えることが大事……と講演する水上チカ子先生



東海林なな子さん



笹本信幸君



大沼ノブヨさん



佐藤郁子さん



小松豊子さん



佐藤房信君



小野勝徳さん



小松正美さん

臨時
時會
臨議

研修集会施設建築費など

二千百六十六万二千円補正

東由利町議会第五回臨時時は、九月四日に招集されました。

町長改選後初めての議会で、議案審議に入る前に町政報告に立った町長は、

「…先般の町長改選で、不肖私が四たび就任のお許しを頂いたことは、偏に皆様方の御支援、御厚情の賜と深く感謝申し上げます。

今後の町政につきましては、今までの経験を生かすべきものは生かし、反省すべきものは反省して、皆様とともに東由利発展の為に最善の努力を

尽くす覚悟です。どうかよろしく願います。」

と、町政に対する理解と協力を要請しました。

このあと、次の案件について審議、全案件を原案どおり可決しました。

【専決処分の承認を求めることについて】

本年度施行する農村基盤総合整備事業農業用排水施設整備工事及び集落道整備工事（大下線）について、入札者との間に早期に本契約を締結し、工事の促進を図る必要があったため。

【町営土地改良事業の施行について】

昭和五十四年度において、新農業構造改善事業による町営土地改良事業として「杉森地区暗渠排水工事」を施行するとした。

・事業量 二・一ヘクタール

・総事業費 三百六十四万円

【昭和五十四年度町営土地改良事業の経費の賦課基準等を定めることについて】

昭和五十四年度において施行する杉森地区暗渠排水事業の賦課基準並びに徴収時期、徴収方法を次のとおり定めた。

一、賦課基準

関係受益者の地積割

二、徴収時期

町長が定めた時期

三、徴収方法

金銭をもって普通徴収

【昭和五十四年度東由利町一般会計補正予算（第三号）】

歳入歳出予算にそれぞれ二千百六十六万二千円を追加し、総額をそれぞれ二十億三百九十一万六千円とした。

歳出補正の主な内容は、次のとおり。

・研修集会施設建築事業費 千八百九十一万七千円

・農村総合整備モデル事業調査診断委託料 百七十万円

・同事業基本設計委託料 四十四万円

50名が修了証を手に

足場組み立て等 技能講習会
作業主任者



びっしり組まれた講義に真剣にメモを取る

技能資格を取得し、有利で安全な出稼ぎを——と、町では本荘公共職業安定所と共催で去る八月二十八・二十九日の二日間、町開発センターを会場に「足場組み立て等作業主任者技能講習会」を開催しました。

講習会には五十名（内町外十一名）が参加、午前九時から午後五時までびっしり組まれた講義に真剣に聞き入り、最終日の試験には全員が合格、修了証を手にしました。

景気は回復基調にあると言われながらも、なお厳しい経済情勢の中で、出稼ぎに限らず、建設現場等に働く人には

あらゆる技術、技能資格が要求されており、その資格を持つていないのでは就労条件、待遇の面で大きな違いが出てきます。

こうしたことから町では、出稼ぎ解消を最終目標としながらも、まだ当分続くと思われる出稼ぎの援護対策事業の一つとして、今後もこうした技能講習会を開催していくことにしています。

また、出稼ぎに行く場合には、本人はもちろん、留守を預る家族も安心して働けるよう必ず、出稼ぎ相談所や職業安定所を通して就労するよう望んでいます。

町長日記

東由利中学校の校門の建設は、従来の課題でしたが、十周年記念に建設することに決まりました。

校門は、学校の象徴であり、教育の理念を伺わせるものです。縦四尺、横八尺、厚さ二尺の御影石とし、石巻の石材会社に発注しました。県内に誇れるものが出来上ると思います。

論語に

不憤不啓（憤せずんば啓せず）

不悱不發（悱せずんば發せず）

とあります。古臭いものを持ち出したと思われまじやうが、決して古臭いものはありません。

「憤す」というのは、憤慨の意味ではなく、「口ではうまく言い得ないが、何か心の中から湧き上って来るものがある」という意味です。生徒が、自分自身の心の中に何か湧き上って来る様な教育環境を作って、その湧き上った心に方向づけをしてひらいて（啓く）やるという意味です。

「悱す」ということは、心に疑問を持っているということ。生徒が、疑問

を持っていながら、それを口ではうまく言えないでいる様な状態に、教師は、その疑問を解く方向を思い発させてやる（発意）という意味です。

憤せなければ、悱せなければ、教育に成果が上らないという意味です。

本人（生徒）が全く持っていないものをこちら（教師）が注入するのでなく、本人の心にあるものを掘り出してやるのが教育だといわれています。こういうやり方を「啓発主義」といっています。啓発の語源は、ここにあるとされています。

論語は、二千五百年前、中国の孔子の言葉を集めたものです。時代を越えて、この八字が、近代教育の本筋に非常に一致しているのではないかと考えます。門の裏にこの八字を刻み「啓発の門」と呼ぶことを提案する次第です。

中国の古典にふれる事が、中国を理解する上にも、我國の今後の文化の形成の上にも大切なことだと思います。



↑この時ばかりは追越し禁止も関係ない

→綱を引くこの力が明日の未来を築く



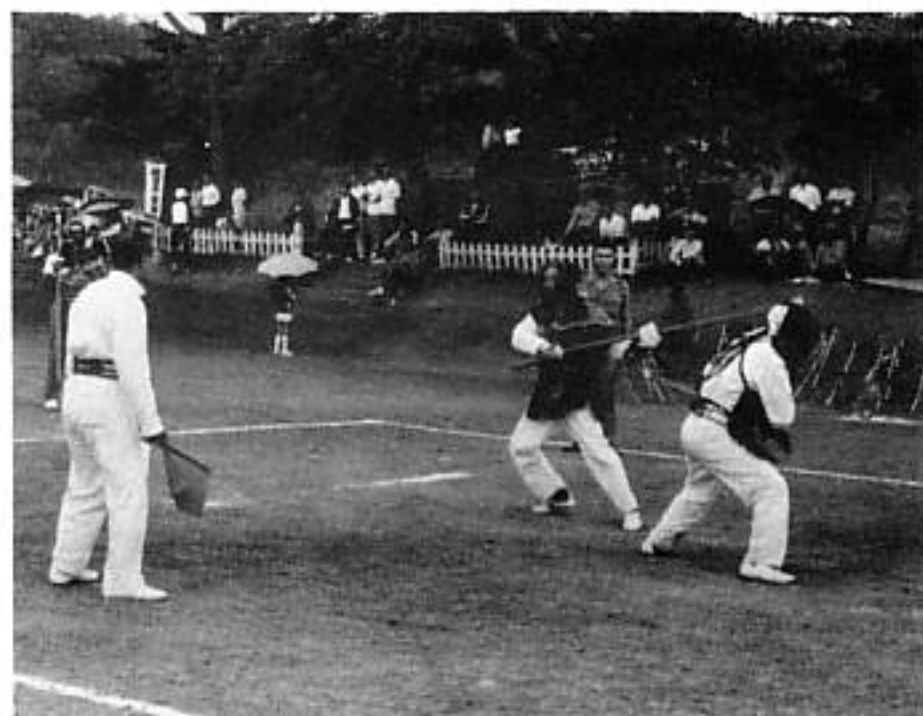
町民運動会 奮戦記



←堂々の入場行進



←走り巾飛び……空飛ぶ人間？
がいっぱい



←銃剣道大会もある



↑父ちゃん、ナガナガ満杯にならねもんだナ！

明るい町づくりは体力づくりから——雨のため一週間延期された第十二回町民運動会は去る九月二日、台山グラウンドで行われました。当日は、競技途中からあいにく雨に見舞れ、分館対抗リレーなどの一部種目がカットされましたが、悪コンディションの中、泥にまみれながらも部落対抗種目の綱引きやボール送り、満杯リレーに熱の入った競技を展開。結果、茂沢・祝沢チームと山崎チームが同点で、仲よく総合優勝を分けあいました。出来秋を間近にひかえた町民の「和」と「ブアイト」を写真で綴ってみました。

→ひとつもボールにさわらね人も中にはいたのでは？



さわやかな暮らしをはこぶこの一票

衆議院議員総選挙
投票日

は **10月7日** です

(同時に最高裁判所裁判官国民審査も行われます)

隣近所誘い合って投票所へ！

郷土意識を高めよう

町連合
青年会

第一回ふるさと祭り開催

「ふるさとを大切にしよう」をメインテーマに、失われつつある郷土意識を高め、みんなが協力し合って生きていこう——と、東田利町連合青年会（小野勝徳会長、会員百三十名）では去る九月一日、東田利中学校体育館を会場に「第一回ふるさと祭り」を開催しました。

祭りは昼夜二部に分かれ、第一部は、町内各小学校児童を招待。午後二時半から、テレビ玉……なかなかまっすぐはこるばない



↑竹馬……うまく歩けるかな！

ビにかじりつくようになった現代っ子には縁の遠くなった青年会員にとってはなつかしい思い出の遊び「竹馬」「陣取り合戦」「ビー玉」「パッチ打ち」などを実演、伝授し、一緒に楽しみました。

スクールバスや福祉バスなどで集った約二百五十名の子どもたちは、思い思いの遊びに熱中し、会場のあちこちでは一挙一動に黄色い歓声をあげ、昔々の遊びを心ゆくまで楽しんでいました。

このあと、子どもたちは開発センター前に移動、同連青が準備した三つのうすでもちつき。つきあげたものは朋楽荘に運ばれ、女子連青会員の手で「きなこもち」や「おぞうに」にされ、子どもたち



→カラオケ大会……チビッコ千昌夫に拍手喝采

の口に。

もちを配る男子連青会員の周りには子どもたちが群がり、テンヤワンヤの大騒ぎで、二斗のもちほ、またたく間になくなってしまいました。

中には、全然食べられなかったと言って泣き出す子どもも出、予期せぬ出来事に、なだめ役に回った男子会員もいささか弱り顔。

第二部は午後六時半過ぎから開会され、東田利中学校ブラバンド部員の演奏、地下の沢、館合新田の獅子舞、舟打場の番楽、宿青年会員による青年喜劇、カラオケのど自慢大会などの趣向をこらしたプログラムに、集った約五百人の人たちは「ふるさと再発見」の楽しい初秋の一夜を過ごしました。



→約五百人の観衆は、「ふるさと再発見」の楽しい初秋の一夜を過ごす

↓約200年の伝統を持つ舟打場の番楽



←宿青年会員によるオリジナル喜劇「田吾作村のハナたらし」に会場は笑いの渦

自立心や協調性を養う

小学校宿泊訓練

結ばれた深い友情の絆



神聖な火に、互いの友愛を誓う

町内六小学校の五年生を対象とした「小学校宿泊訓練」が、去る八月二十八日から三十日まで、東由利中学校寄宿舎など台山周辺で行われました。これは、子どもたちに、自然の中での集団生活を通して豊かな個性と創造力を身につけさせるとともに、自立心や協調性を養い、併せて、ふるさとの自然や産業、文化遺産に親しみと愛着を持たせ、互いの友愛と親睦を深めさせよう——と、町内小学校、教育委員会、町、町教育研究所が主催したものです。

教室には六校から男女合わせて七十二名が参加したほか、各学校の先生、教委職員らも参加し、指導と世話にあたりました。

初日は、全員が東中寄宿舎に集合、オリエンテーション、自己紹介のあと歌の練習で気分をほぐし、さらに東中体育館に移動してフォークダンス

やゲームに汗を流しました。

二日目は、視点を変え町の外から自分の住む町を見つめ直してみよう——と、スクールバス、福祉バスに分乗し、午前八時過ぎ寄宿舎前を出発。智者鶴から羽後町に入り、同町太平山憩の森、五輪坂自然公園を見学、雄物川町大沢を通って東由利に入り、遠藤光昭さん（下小路）の肥育牛舎を見学し、正午前に寄宿舎に帰りました。

午後からは、新聞づくりや水泳、歌を楽しみ、宿泊のためのテントを開発センター後ろに設営。

初めて飯盒で飯を炊き、夕食を済ませたあとはお待ちか



しっかり火を見て、ナマ米になるゾ!



同じ釜のメシが仲間意識を強くする

ねのキャンプファイヤー。赤々と夜空をこがす火の周りで、同じ班の仲間がともに相談し考えた十四班のスタンツが行われ、歌やフォークダンスを楽しんだあと、期待



手と手をつなぎ、友情の輪を大きく広げる

と不安を抱きながら、初めてのテントでの一夜を過ごしました。

三日目は、起床、ラジオ体操、ランニング、朝食のあと町民グラウンドで交換ソフトボールに汗を流し、最後に反省会。

「今まで知らなかった多くの友達と友達になれてよかった」、「水泳、ソフトの時間が短く残念」、「二泊三日でなく、一週間程度の期間がほしかった」など子ども達の感想は様々でしたが、袖山小も蔵小もない「台山小学校五年生」として、規則正しい集団生活を体験した子ども達の胸には、確かな手ごたえのある思い出が刻みこまれたようでした。

一滴

万葉集の山上憶良（やまのうえのおくら）の歌に「秋の野の花を詠（よ）める歌二首」というのがあります。

「秋の野に咲きたる花を指（および）折り かき数ふれば七種（ななくさ）の花」

「萩の花 尾花 くず花 なでしこの花 おみなえし また藤袴 朝貌（あさがお）の花」

と、対（つい）の歌になつています。

これらを見て、アレ、ススキやキキョウはどうなっているのかな。たしか七草に入っていたのにな、と思われる方もおられるでしょう。

実は尾花というのがススキ、朝がおは、あの夏の朝に咲くアサガオでなく、ムクゲ、ヒルガオ、またはキキョウではないかといわれていますが、キキョウ説が有力です。年々、各地で秋の七草を見るハイキングなどが盛んになりつつありますが「野の花は取らずに撮ろう」という心掛けで、自然を大切にしたいものです。



今年も十月一日から、赤い
羽根でなじみの深い「共同募金」

この運動は、お互いの「助け合いの精神」によって、めざまない人達の生活の向上を図るなどの福祉活動に必要な資金を集めるものです。

皆さんの家庭、職場、街頭などで協力いただいた温いお金は、全て町共同募金会から県の共同募金会に一括納付され、県共同募金会では、学識経験者や各界の代表者で組織する配分委員会を設け十分協議し、市町村社協や施設に配分する金額を決めるしくみになっています。

五十三年度には、全町から六十六万七千三百三円の募金

が集まりました。(この中で、各家庭から募金をいただいた額は六十六万六千六百六十円で、一戸当たり四百五十九円という結果でした。)

前に言いましたように、このお金は県共同募金会に納められ、地域福祉のための一般配分金として三十四万八千円、在宅福祉サービス事業としての特別配分金十四万円、計四十八万八千円(募金額の七十三%)が、町社会福祉協議会に還元されました。

また、五十二年度の特別配分金では、朋楽荘に扇風機三台、医療箱一箱、有鄰館に医療箱一箱備えつけられました。

年々高まって来ている社会福祉の要求にこたえるには、民間社会福祉事業である共同募金がその大切な使命を果して

ジョギングをしよう

体力づくり強調月間

「歩く」「走る」——だれでも知っているこれらの基本運動が、最近、改めて見直されています。単なる流行としてではなく「健康・体力づくりの最良の妙薬」としてです。

なかでも人気を呼んでいるのが、ジョギングです。

ジョギングとは、もともと「そつと押す」とか「ゆっくり進む」という意味ですが、体力づくりの上では「全身の力をぬいて、ゆっくり走ること」とされています。そのスピードは、おしゃべりしながら走る程度で、スピードやタイムを競うものではありません。あくまでマイペースで、あせらず、ゆっくり——これが基本です。

十月は「体力づくり強調月間」で、今年のテーマは「歩け、走ろう」です。

この機会に、あなたもジョギングを始めてみませんか。

おり、今年も、この運動を成功させるために、町民の皆さんのご協力をよびかけています。

国道 早期改良整備を 107号線

生活の向上・産業発展のため

一日も早い改良整備を……とあいさつに立つ
た同盟会長の佐藤本庄市長



国道一〇七号線中横手市と本庄市間における改良整備促進を図ることを目的に、沿線二市三町(本庄、横手、東由利、雄物川、平鹿)で組織する国道一〇七号線整備促進期成同盟会(会長佐藤本庄市長)の定期総会が九月三日、町開発センターで開催されました。

総会には、各市町の首長、助役、議会議長、杉本県土木部長、由利・平鹿の地方部長と土木事務所長ら二十余人余りが出席したほか、来賓として、木内、檜岡、柴田、佐藤の各県会議員も出席、沿線住民の生活及び福祉の向上、産業発展のため、同線の早期改良整備を関係各方面にはたらきかけてゆくなどを内容とした事業計画を決めました。

同線は、本庄由利、横手平鹿を結ぶ大動脈であり、現在第一次改良は完了されているものの、未だ幅狭く曲がりくねった区間が随所に見られる現状で、交通量の激増している今日、一日も早い改良整備が望まれているものです。

こうした狭あい曲折区間は特に本町内に多くあり、この改良整備の促進は、町の発展に重要な意味を持つことは言うまでもありません。

昨年からは、板戸地区、蔵工区で改良整備が実施されていますが、この促進と併せ、町では、今後さらに奥ヶ沢地区の改良整備に着手するよう関係各方面に要請していくことにしています。

ジョギングのフォーム

頭 前後左右にゆすらないように。

視線 あまり下を見ないで、前方を見る。

あご あごを突き出したり、首にむだな力を入れない。

腕の振り 手は軽く握り、ひじを90度ぐらいに曲げ、体側にそって振る。

ひざ ひざは真っすぐ前方に引きあげる。外側に開いてあげると正しくキックができなくなります。

肩 力まじりリラックスする。力むと肩がこりあがりやすくなります。

上体 前傾しすぎないように。前傾しすぎると歩幅が狭くなってしまいます。

腰 腰を前方に突き出す感じを保ちます。ぐらつくようなら、腹背筋を強化。

脚 キックしたとき、脚が真っすぐなるのが理想的。またキックのあと脚が後ろに流れないように。

着地



母指球部(足の親指のつけね)でキックします。

役場特設消防隊を結成

小型ポンプ操法披露

役場では、庁舎自衛消防組織として先頃「東由利町役場特設消防隊」を結成、九月十日には庁舎前で、町長始め全庁員の見守る中、小型ポンプ操法の訓練成果を披露しました。

隊は、三十歳以下男子職員十七名で組織され、去る七月から広域消防東由利分署員の指導で、役場庁舎の自衛消防組織で、通常の一般火災発生時には原則的に、出動しないことになっていました。



町長始め全庁員見守る中、小型ポンプ操法の訓練成果を披露する役場特設消防隊員

十数回にわたり訓練に努めてきたものです。当日は四人ずつ四班に分かれ、指揮者の号令の下、キビキビした動作で小型ポンプ操作に取り組み、観衆の同僚職員らから大きな拍手が贈られて

いました。

今までは「スワ火事だ」

の声に、ホースのつなぎ方、

水の出し方もわからず右往

左往する状態でしたが、隊

の結成によって、実戦OK

という体制が出来たことは

大きな意義をもち、関係各

方面の期待と注目をあびて

います。

役場では今後、隊の強化

を図るとともに、三十歳を

超える職員についてもこう

した訓練を実施し、不時の

災害発生に備えたいとして

います。

尚、同隊は、あくまでも

役場庁舎の自衛消防組織で、

通常の一般火災発生時には

原則的に、出動しないこと

になっています。

マイホームと税金

土地や家を買ったときに かかる税金

マイホームづくりには、資金計画や設計など、いろいろな問題がでてきますが、税金もその一つです。そこで、土地や家を買ったときにかかる税金について、そのあらましを説明しましょう。

土地や家を買ったときにかかる税金は「登録免許税」と「不動産取得税」です。また、控除される方では「住宅取得控除」があります。

▽登録免許税……土地や家を登記するときにかかる税金で、取得した不動産の価額（市町村役場の固定資産課税台帳の「評価額」）に規定の税率、たとえば所有権の売買のときは五厘、所有権の保存は〇・六厘などをかけて算出し、登記申請のときに納付します。

また、新築のマイホームを取得し、新築後一年以内に登記したときは〇・二厘と税率が軽くなります。

▽不動産取得税……この税金は都道府県税で、標準税率は、不動産価額の三厘です。

▽住宅取得控除……マイホームを新築したり、建て売りの新築住宅を購入したときは、その床面積三・三平方メートル以上で、最高三万円が三年間所得税から控除されます。住宅取得控除が受けられる住宅は、

①床面積が百六十五平方メートル以下。
②工事完了または購入してから六カ月以内に入居し、引き続き入居していること。
③昭和五十五年十二月三十一日までに、住宅を新築または新築住宅を購入して自分で居住すること。

なお、住宅ローン等によって新築住宅を購入し年間返済額が三十万円を超えるときはその返済額に応じて最高三万円が控除額に加算され、合計六万円が控除されます。

小松・遠藤両氏に 知事から表彰状

社会福祉に貢献

子どもの幸せをめざして一を統一テーマに、昭和五十四年度秋田県社会福祉大会が九月四日、秋田市の県民会館で開催されました。

席上、本町黒沢の小松善次郎さん（59歳）、小倉の遠藤莊二郎さん（63歳）は、社会福祉事業功労者（民生・児童委員功労）として、県内から選ばれた五十三名とともに県知事から表彰状が贈られました。小松さんは昭和三十六年八月から、遠藤さんは昭和三十七年十二月から、それぞれ民生・児童委員として、長年に

わたり地域社会の福祉増進に貢献してきた功績が認められたものです。

献血功労者二名に 日赤特別社員の称号

十回以上の献血功労者として先ごろ、次の方々に日本赤十字社から「特別社員」の称号とそれを章する門札が授与されました。

遠藤忠男さん（25歳）館西
畑山美喜子さん（42歳）大琴
寅田敏雄さん（38歳）新町

旧下中・旧玉中に係 わる品収集に協力を

東由利中学校は今年度で創立十周年を迎えますが、同校



稲わらは焼かないで 地力増強に役立てよう

「稲わら」は大切な財産です。稲わらは焼かないで増肥づくりや家畜のえさなどに利用しましょう。

— 稲わらを焼くことは禁止されています —



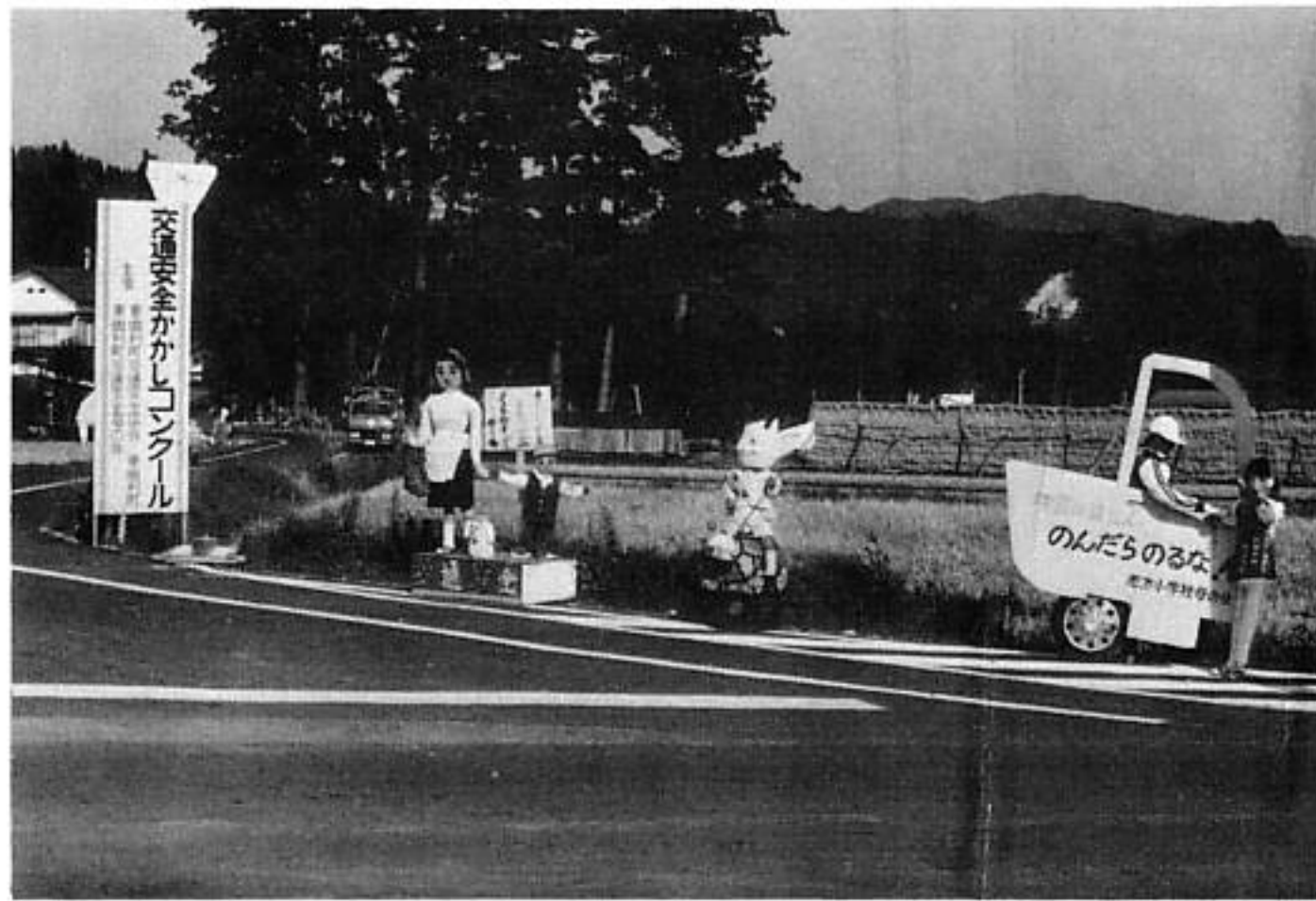
町の概要

人口総数	6,408人
うち男	3,146人
うち女	3,262人
世帯数	1,464戸
面積	148.51km ²
	(54.9.1)

交通事故のない町に

交通安全 かしコンクール開催

秋の全国交通安全運動を前に九月十八日、「町交通安全かしコンクール」が役場東側車庫で行われました。これは、あとを絶たない交



かし連からもお願いします「交通安全」

交通事故の防止と交通安全思想の普及、徹底を図ろう——と町交通安全協会、町交通安全母の会、町の三者共催で、昨年

査の結果、玉米小学校交通安全母の会・PTAに「優秀賞」、老方小学校交通安全母の会に「優良賞」、宿小学校交通安全母の会に「アイデア賞」がそれぞれ贈られました。

交通安全は、被害者ばかりでなく、加害者も、さらにはその家族をも不幸にします。後悔先に立たず——事故を起こしてからでは遅すぎます。

なお、優秀賞となった玉米小学校交通安全母の会・PTA製作のかしは、同月二十一日に行われた本庄地区交通安全協会主催の「かしコンクール」に出品され、本庄署管内六市町から出品された十三点の中で、見事第一位となりました。

善意

老小に雑巾172枚
老方敬寿会婦人部(阿部ナツオ部長)では、このほど老方小学校に雑巾百七十二枚を贈り、喜ばれています。



読書の秋——。子どものころに、本を読む習慣をつけておくことは、これからの人生に大きなプラスになるでしょう。

読書の習慣を身につけるには、まず、本を読むことの楽しさを味

まず本を好きにさせること

そのためには、子どもが興味を持ち、読みたがっている本から与えていくのがよいでしょう。子ども自身が、読んだあと満足感を味わえる本を選ぶ——これが、本に親しませる第一歩です。

人公に容易に同化することです。主人公は、必ずしも人間に限らず、動物や人形、空想上の生き物などさまざまです。それらの主人公の喜びや悲しみは、そのまま子どもの心の中にいきづき、読書の楽しさを知っていくようになります。

こうした親子のコミュニケーションを通して、お母さんは次に与える本の選択を考えるとともに、子どもの読書を上手にリードしていくように心がけたいものです。

社福だより

故古関喜一郎氏のご遺族(松柴、古関三郎さん)より、香典返しとして五万円が届けられました。

故人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。



8月21日~9月20日

誕生



大庭明子 舟木 忠幸 二女
畠山敏美 下通 茂 長男



結婚

おしあわせに

小松 喜久雄 中 通
野村 元美 大阪 市
佐藤 君栄 黒 沢
鈴木 勇子 沼
小松 朝男 山 崎
小野 夕子 高 屋
柴田 和尋 須 郷
佐藤 栄子 中 通
遠藤 利通 小 倉
石橋 和代 由 利
佐藤 安夫 筑 島
畑山 英子 宇 戸
金子 拓雄 新 町
長谷山 アイ子 舟 木

・お悔み申し上げます

阿部 久吉 74歳
工藤 ナオ 67歳
佐藤 たか 69歳
古関喜一郎 66歳
佐藤 源吉 74歳

両隣り互いに
かけ合う声と力